

恋する川柳物語かわら版



其の二十六 第二十五回 「恋する川柳」——【冬】恋する川

柳編——の応募作品集です。恋する気持ちを詠む川柳「恋する川柳」冬編のお題はズバリ恋愛！冬の恋の思い出を中心に、様々な「愛」や「恋」のカタチを表現していただきました。

それにしても、今年は雪が本当にほとんど降らなかつたです。すね♪昨年より始まった、元旦の河原町空手道少年部の寒稽古に臨んだ子どもたち、恒例の豆まきイベントの出演者たち、みんなの表情の余裕だったことが（笑）。ロシアの隕石ではないけれども、天変地異という言葉が連想されて不気味に感じられる部分はあっても、何にせよ私たちのような大雪地方にはありがたい限りです。神様来年もヨロシクですう！！

春もすぐそこ、来月には高速道路の鳥取自動車道も河原インター線、本線ともども全線開通となります。今までよりもぐっと！みなさんとお近付きになれる予感☆今からどちらへ旅に出ようか、ワクワクして止まない私です。

ってなことで、ほな、今日もぼちぼち見てつかあさいな。

【応募作品一覧】

◆いにしへの 恋は如何にと 思いはせ

◆八神さま 恋の手ほどき 教えあれ（宇治市）

◆愛こめて 妻の料理に 舌つづみ

◆人々は 愛の絆なで 結ばれる（鳥取市）

◆冬の星 ひとつ捕えて 君のもと

◆古今から 脈々続く 永久の恋（P・N最能美湯参）

◆闇鍋を つつける幸や 君へ愛

◆寄る年齢（とし）に 反比例する 嫉妬心（上郡町）

◆初詣で 着物姿に キュン！とする（P・Nとまと）

◆虹の橋 君は今でも あの町に

◆雪合戦 まっすぐ君に ねらい玉（鳥取市）

◆愛しくて 愛が哀へと 変化する

◆思うほど 口に出せない 愛してる
（P・Nまちゃまちゃママ）

◆空港で 見送る空に 雪が舞う（P・N艶子）

◆衣更着（ききさらぎ）て 見送る母や 冬の窓

◆黒髪が 踊り駆け寄る 冬の駅
（P・N小桜なちゅちゃん）

◆冬の夜 コタツで語る 恋もある

◆冬の恋 雪にも負けぬ 清らかさ（智頭町）

◆降る雪を 2人の恋が 溶かしてく
（P・Nもぐらおやじ）

◆湯上りの 君が春呼ぶ 宿羽織（P・Nだじゃれまん）

◆せめて足 恋が絡まる 堀炬燵（丹波市）

◆ゲレンデに 女子会シユプール 桃色吐息

◆地嵐に 妻をひた抱く 鴈の風呂（P・N茶々丸）

◆堀炬燵 足に思いが 滞り（P・N小星）

◆コタツにて 恋の予感か 足と足（P・Nせんちゃん）

◆人生も プラス志向で 生まれる恋

◆まだまだと 恋の予言を 踏ませない（三朝町）

◆雪明かり 靴跡なぞり 夫（かれ）のあと

◆二人の手 一つのポッケ 寮の道（P・N矢車草）

◆手をつなぐだけで 雪すら溶かすイヴ（P・N琴音翼）

◆ 初雪や 君の冷たい 手をにぎり
(P・N 金砂郷ののび太)

◆ あの人を 恋する気持ちは 一途かな

(P・N ドンコ)

◆ 一目惚れ あなたに出逢えて よかったな

◆ 私の手 優しい君が そっと手を

◆ 夢を追う あいつの背中 恋おちる

(P・N 恋するはっしー♥)

◆ 一面は 雪おおわれた 屋根瓦 (P・N ニック84)

◆ その笑顔 いつか私に 見せてよね (P・N 空)

◆ 会いたいな ドキドキしてる 帰り道 (P・N とまと)

◆ 寒かれど 手をつなぐため 素手のまま

(P・N はやちゃん)

◆ 寒くても 心の中は あったかい

◆ ひらひらと 想いがつもる 雪景色 (P・N ミー)

◆ 手つなぐ すぐにあたたか 私の手 (P・N 愛里)

◆ 冬の恋 儂く消える 雪のよう

◆ 粉雪の ようにはかなく 消える恋

◆ 積もるのは 君への想い 恋の雪

◆ コート着て ベランダ出るは 君のため (P・N ラー子)

◆ 恋愛に 教科書なんて ないんだよ (P・N うーこ)

◆ 寝る前に 思い浮かべる 君の顔 (P・N 沙来)

◆ 「寒いね」と きみがにぎると ぬくもる手

◆ 絵馬を買い 思いを書いて 伝えます (P・N パンダ)

◆ あの上着 強がり渡した 君のため

(P・N 血盟騎士団副団長)

◆ 見えたかな 曇った窓に 「好き」の文字

(P・N まろてぃーぬ)

◆ 特別な あなたといたい クリスマス

◆ 自分から 恋をつたえる メッセージ

◆ ちぎれない 僕と君との 赤い糸

(P・N シャロップ)

◆ 初デート 初雪なんて きせきだね

(P・N コーンスープ)

◆ 白い息 彼と手つなぎ 初日の出 (P・N ひまりん)

◆ クリスマス お願いごとは 初彼氏 (P・N けいピー)

◆ 「寒いから。」 ぶっきらぼうに 手をつかむ

(P・N ヨシ男)

◆ 「寒いね」と 手をつなぎあう 帰り道 (P・N ミー太)

◆ 新学期 君の笑顔に 会いに行く (P・N 老人)

◆ バレンタイン 渡す前での おまじない

◆ あなたもね 冬の星空 見てるかな (P・N せいら)

◆ 年賀状 好きなあの子への メッセージ

◆ 寒いねと 言い訳をして 手をつなぐ

◆ 恋の花 どんなものにも めげないよ

(P・N 恋するハッシー)

◆ 彼を見て ほほ赤くなる 冬の朝

◆ 恋心 雪にとけそう この思い (P・N あやか☆)

◆ 冬なのに 心の花は もう満開 (P・N みおたん)

◆ 息白し 君への想いは 消えないで (P・N シャッポポ)

◆ つらいとき 2人でいたら 半分に (P・N ドロップ)

◆ はなれても 2人を結ぐ(つなぐ) 赤い糸

(P・N ギャロップ)

◆ 肉まんを 二人で食べた 帰り道 (P・N きなこもち)

◆ つないだ手 手袋なくても あったかい

(P・N ひまわり)

◆ 寒い夜 つないだ手と手 あったかい (P・N ふうか)

(以上、吹田市立豊津西中学校のみなさま)

◆ 君の足 こたつの中で 合図する

◆ 君と僕 繋ぐ長い マフラーで (P・N 清少納言)

◆ アツアツのおでんを 突く恋はじめ

◆ 寒くなるほど 恋しさが火と燃える (P・N ポンタロウ)

◆ 鍋に猪口 二つが並ぶ 距離縮み

◆ 鍋つつく 二人が並ぶ 距離縮み

(P・N 金砂郷の鴨ちゃん)

◆ 初雪に 恋という字を 書いてみる (P・N 春豆)

◆ 白銀に 描いたシュプール スキの文字 (P・N 春爺)

◆ カニよりも おでんを囲む 父と彼 (P・N お友ちゃん)

◆ 舞う雪に ふたりの出会い 重ね見ゆ
(P・N ゆうちゃん)

◆ 暖房は 要らぬあなたの 温い膝

◆ 燃えている そっと炬燵で 握った手(P・N みちんこ)

◆ ジャケットの 彼の匂いに 包まれる(P・N 百合香)

◆ 初デート 回した腕が 宙を舞う(P・N しげのり)

◆ 吐く息が ハートに見える 冬の恋

◆ 冬ソナは 乙女心に 火をともし(P・N ワタミツ)

◆ 駆け寄って 胸に飛び込む 白い息(P・N たかさま)

◆ 混浴で腹のすわった彼女たち(P・N 春樹)

◆ 「大好き！」に 「なんちゃって」付け 燃える頬

(P・N 焼けぼっくい)

◆ 恋をして 人は心が 伸び盛る

(P・N クンタ・キンテ・ジャパン)

◆ 初雪の 心で君に 恋をする(P・N ルーク)

◆ 見つめ合う だけの二人で 卒業し

◆ 梅咲けば 転勤解けて 君の許(P・N よったんぼうや)

◆ マフラーが 間に合わなかった クリスマス

◆ 寒くなり そっとあなたと 手をつなぐ(P・N 黄くま)

◆ スキー場 ココアと彼が 温かい

(P・N paipai ibuchin)

◆ 触れたいよ 光で繋がる 100里先の君

(P・N milky)

◆ 七年目 ツリーのまえで marry me(P・N まみ)

◆ 湯たんぽの ようなあなたへ 飛びついて

◆ 恋心 トライを目指す ラグビーかな(P・N コバ)

◆ 冬の恋 これから2人で あったためよ

◆ 布団の中 犬と分け合う 冬の幸(P・N あーさま)

◆ 食欲を 恥じた彼女を 我妻に

◆ 無言にて ただ抱き寄せる 愛もあり(P・N 木之影)

◆ 初デート 寒さが言い訳け ほほ染まる

(P・N タビタビ)

◆ 背伸びした 彼に間違い 抱きついた(P・N ユニママ)

◆ 恋重ね プロポーズ忘れて 今一人

◆ 年重ね めくるめく恋は 夢の中(P・N 畑耕作)

◆ 冬逢瀬 重ねた軌跡が 二人つくる(P・N 山川)

◆ 門柱に 君を待ってる 雪だるま(P・N 散歩)

◆ 真っ白い 窓に君の名 書いて消す

◆ 降り積もる 君への思い 雪のよう(P・N ナフィー)

◆ もう恋に かけひきしない プラス思考

◆ この恋に 予測変換 ないかしら(P・N PON5)

◆ 雪だって へっちゃらキミの 腕の中(P・N やっこ)

◆ 片思い 鉛の如く冬の空

◆ 寒い日も 君といたなら さくら色(P・N マコト)

◆ 待ってない かわいい嘘が 直ぐばれる

◆ 消えてゆく 白い息まで 愛おしい(P・N 平野太郎)

◆ 一人旅 古街道での めぐり逢い

◆ ボランティア 優しい心 惚れられて(P・N 桃光)

◆ 50℃ 少し熱めの 恋を知る (P・N あげぼの姫)

◆ 知らぬふり 恋はちらちら 振り返り
(P・N 知らない人)

◆ 愛妻の 弁当おいしや 冷えてても

◆ 愛妻の メールうれしや 単身地 (P・N ミズナス)

◆ 勇気だし 告白するも 人の妻 (P・N 遊人)

◆ 恥ずかしい 俺の気持ち が 読まれてる
(P・N ムッツリ)

◆ オクターヴ あがる彼待つ 電話口

(P・N ゆうこひらた)

◆ 寄り合って 居るそれだけで 暖かい

◆ 恋の火が お餅焼いてる そんな気が (P・N 臨海和笑)

◆ 寒い冬 彼方といれば 温かい

◆ 雪の世界 立たずお君に 恋心 (P・N 夜愛ひな)

◆ 水じゃない 恋が溺れる 物質は (P・N ボケ爺さん)

◆ 晴れないで ほしいと願う 傘の内 (P・N ひぐらし)

◆ 寒空や あなたののもとへ ゆきたいな (P・N ピノコ)

◆ マフラーを 編んだ貴女に 首ったけ (P・N よつは)

◆ 寒いわねと 己が手を見る 年増かな (P・N ふみ)

◆ ログセも 真似したくなる 恋心 (P・N わかちやる)

◆ あんどんに 雪の湯けむり 揺れる影

◆ しんしんと 雪降る宿に ふたり鍋 (P・N れんこ)

◆ スキー場 転んだキミに 手を貸した (P・N 氷川の杜)

◆ 失恋で 雪と恋とが 舞い散るよ (P・N かのん)

◆ 確信犯 手袋忘れて 手をつなぐ (P・N ティム)

◆ もう一度 立つ道の駅 人恋し (P・N 陽桜)

◆ 冷たさに とまどい触れぬ 遠き恋 (P・N 灯理)

◆ ときめきを 胸に留めて 息を吐く (P・N 曲者)

◆ 待ち人は 願って引けば きょうはなし

◆ 人ごみの 初詣の中 握りしめ (P・N 源田 繁太郎)

◆ 携帯の ボイスメモさえ 愛おしい (P・N 永見 心咲)

◆ 恋をして 鏡の中に 夢をみる

◆ 席並べ 淡き想いの 恋心 (P・N ワスレガイ)

◆ 寒風を いっきに吸い込み 「スキ」と言う

◆ ぎこちなく 手を取り合った 雪の夜 (P・N ぽん)

◆ 甘酒を じっと見つめる 雪だるま (P・N 三つ柏)

◆ この歳で 冬ごもりなど してられぬ

(P・N 大和の雨蛙)

◆ 雪に書く あなたに届けと 愛の文字

◆ 夜祭りを 寄り添い見てる 雪の中 (P・N 一本木)

◆ 大掃除 見つけた昔の ラブレター (P・N 真中恋代)

◆ 雪の夜 あなたの温もり 恋しくて (P・N どんくりこ)

◆ 雪上に スキと書いたが さらに降り

◆ 帰り道 ひとつマフラー 肩よせて (P・N 無無)

◆ 混浴と 聞いただけで 湧く湧くし (P・N 虎次郎)

◆ 着信音 聞けばときめく 春の宵

◆ メール打つ 指も弾んで ミスばかり (P・N 和朗)

◆ 春に去る 君はやっぱり 雪女 (P・N 銀河伝説)

◆ 俺が好き? その何倍も 君が好き

◆ 君が好き 心がキミで 着膨れる (P・N お酢)

◆ 17歳の昔の私に恋してる。(P・N こうちゃん)

◆ 指切りを ポックで結ぶ 帰り道

◆ 約束は 曇りガラスの 待ちぼうけ (P・N 福期待)

◆ ゲレンデも 熱き二人に 溶ける雪

◆ 恋う人を 軒端に偲ぶ 雪明り (P・N やまちゃん)

◆ 月夜には 好きと伝える 夢見てる

(P・N まんじゅうむすめ)

◆ 立ち尽くす 恋にはぐれた 交差点 (P・N 山田めぐる)

◆ 冬の光り 心に沁みる 君の声

◆ 雪中 君の笑顔が 降って来る

(P・N 働き蜂ちえちゃん)

◆ カイロして 二人でいる時 長く持つ

◆ 鼻水を すすって涙と 間違われ (P・N ぽんた)

◆ 我が妻と 冬のソナタを もう一度

◆ 冬の恋 オデン・もつ鍋 決まりでしょ (P・N 光男)

◆ 会えないで 過ごしたイブもあり 結婚

◆ 雪になり イブだったのに 君と会え (P・N 雄之介)

◆ 愛し合い スタート地点に 立つ夫婦 (P・N 梓)

◆ どこことなく 君に似てくる 雪だるま (P・N 銀次郎)

◆ 木枯らしが やきもちをやく 二人道

◆ ずるい恋 計算高く 雪降らし (P・N 明日花)

◆ 寒いだろ? 口実にして 手をつなぐ (P・N まめぶち)

◆ 好きな子に わざとぶつける 雪の玉

◆ 片方の 手袋はずし 手をつなぐ (P・N 紫龍)

◆ 雪合戦 狙うはハート ど真ん中 (P・N ゆみこ)

◆ 行き逢って 息白さ増す 冬の朝

(P・N チュン子すずめ)

◆ 車窓から 冬の白兔を 二人占め (P・N うずまき君)

◆ アツアツの 相合傘に とける雪 (P・N たくらだ猫)

◆ ロマンチック 君を返さぬ 青い月 (P・N 恋太郎)

◆ 恋をして 見るもの全て ピンク見え

◆ ドキドキが ときどきになり 終わった恋

(P・N おじやすか)

◆ ときめきか 動悸かわからぬ 老いの恋

(P・N ジーヤン)

◆ ありがとう その一言に 妻の愛

◆ 雪中 舞ってくれた 君が嫁 (P・N 仁)

◆ 「おはよう」と 朝もやの中 走り去る

(P・N 朝もやよ今朝もありがとう)

◆ 雪景色 バックにふたり Vサイン (P・N おさぼう)

◆ 雪の日も 二人は炬燵で 春に成る (P・N よし得)

◆ 目をつぶり 恋の始めと 終わり追う (P・N 雪子)

- ◆ 手袋の スマホの恋の じれったさ
- ◆ 火傷する 距離にはならぬ スマホ恋 (P・N やすと)
- ◆ 恋をして 綺麗になったね 愛娘
- ◆ 世の中が バラ色になり 恋をして (P・N みゃんくん)
- ◆ 手袋を とって繋いだ 冬の恋
- ◆ 万葉の 恋が私を 駆り立てる (P・N すふいんくす)
- ◆ 同窓会 あこがれの彼が いたのだが (P・N 金砂郷の鴨子)
- ◆ 一枚の 年賀を探す 恋心 (P・N こと)
- ◆ なごり雪 窓のガラスに 『スキ』の文字
- ◆ 貴女待つ 2番ホームの 7時発 (P・N きゅぼらの風)
- ◆ この雪は 君の肩にも 降り積もる (P・N みつかいかさ)
- ◆ もう一つ 願いが増えた 初もうで (P・N 純情青年)
- ◆ ゲレンデで キミのわだちの 後を追う (P・N カズぼん)
- ◆ 老いらくの 恋に目覚めた アラセブン (P・N ノムさん)
- ◆ 手につかず 鉛筆持てば あの子の名 (P・N 角奈緒也)
- ◆ 見つめてる 冬の日の君 白い息 (P・N くるちゃん)
- ◆ こっそりと 一緒に帰る 下校道 (P・N せーしゅん)
- ◆ 母校見て 目に焼き付いた あの笑顔
- ◆ 初恋が 祖父母の表情 若くする (P・N みわよし)
- ◆ 外は雪 こたつで足が 語る恋 (P・N 船岡五郎)

- ◆ 結ばれて 出来る上司に 甘えたい (P・N 猫目石)
- ◆ 成形し ふったあなたと やり直す (P・N 寒椿)
- ◆ 好きだけど トキメキはゼロ 我が夫 (P・N めぐぐ)
- ◆ 冬の日の キリリとした恋 真剣味 (P・N 清詩薫)
- ◆ 白い息 君の息だけ ピンク色 (P・N 冷凍ぷりん)
- ◆ 木枯らしに 恋するふたり 立ち向かう (P・N とんちゃん)
- ◆ 一つだけ 買ったアイスに 頬赤く (P・N ハッピーママ)
- ◆ 道端で 拾った冬の 恋ひとつ (P・N 冬美)
- ◆ 冷え切った 指を絡ませ 二人道 (P・N 光風)
- ◆ 雪道に 足跡二種が 踊り行く (P・N チョコちゃんママ)
- ◆ リフト乗る 君に見せたい シュプール字 (P・N HIKKY)
- ◆ 鍵わたす あなたの指が 手に触れる (P・N ウルル)
- ◆ 日向ぼこ 上下のまぶた 恋をする (P・N しめじ飯)
- ◆ 老いらくの 恋など無理と 言う鏡 (P・N 大塚ゴロー)
- ◆ 今朝はまだホームに見えぬ娘のマフラー (P・N 奴だこ)
- ◆ 冷えた身を ぼくの熱気で 温める (P・N 澤磨育)
- ◆ 凍える手 両手で包む 母の愛 (P・N 元善光寺)

◆ ノックダウン 娘奥の手 ハートの目
(P・N ゆうみみん)

◆ たかが恋 咲いた椿の 小枝折る

◆ 外は雪 炬燵に蜜柑 恋談義(P・N いしざわ こーど)

◆ 指先も 心も冷えびえ 冬の恋

◆ 芽生え待つ 恋の種まき 冬を越し(P・N 悠々愛々)

◆ 二年越し 引きずる恋の 初詣

◆ 冬ごもり 恋のトリセツ 読みふける(P・N ぽっち)

◆ 好きな娘が 硬さほぐした カニ料理

◆ 雪ダルマ 背中に彼女の 名を刻み(P・N ヒデじい)

◆ 手袋を脱いで繋いだ手の温み(P・N かたおもい)

◆ 木枯らしが 強くて恋は 熱くなる(P・N 栄太郎)

◆ 雪中 バレンタインの チョコは溶け
(P・N かずりん)

◆ オリオンの 雄姿を眺め プロポーズ

◆ 父母よ 風邪など引いて いませんか?
(P・N こうぞう)

◆ 雪の砂丘 足跡語る ランデブー
(P・N ナイスみどるパート2)

◆ 新幹線 ホームで振る手が 愛言葉

◆ 湯けむりを 猿とまどろむ 雪露天(P・N 湯たんぼ)

◆ 見つめあう 瞳の炎 雪溶かす(P・N 風花)

◆ 節電の ふりして寄り添う 冬の夜(P・N 風花)

◆ 照れるから 寒さ理由に 手をつなぐ(P・N だっちゃん)

◆ 冬だから そっと自然に 寄り添える
(P・N あかねけ2番)

◆ 片思い 皮算用は 雪に埋め

◆ 垂(しず)り雪 私と彼の 縁結び(P・N しょんた)

◆ 仰ぎ見る 冬の星座に 君の顔

◆ 夢にすむ 人はいつでも 十八歳(P・N かぐや姫の帝)

◆ 冬の道 行くあてなしに 握る手強く

◆ コタツの中 触れ合う足に 愛確かめ
(P・N 西宮のフーコー)

◆ 溺れてる 恋に浮き輪が 邪魔をする
(P・N 山海の珍味)

◆ 雪しまき 夫婦の距離を 思い出す

◆ 一目惚れ 機能下着に なる事実(P・N とれびの)

◆ 片思い エコなカイロで ウォームビズ

◆ 大吉に ガッツポーズす 片思い(P・N とれびのはず)

◆ 行き(雪)ずりの 恋があるかも 道の駅(P・N 老虫)

◆ いつまでも 歩いていた 寄り添って

◆ 寄り添って どこまでも行く 二人旅(P・N 大本安寧)

◆ 雪のたま なげてあなたへ 冬の恋

◆ ふんわりと 雪のつぶで かえす恋(P・N 次男坊)

◆ 幸太り 着れなくなった サンタ服

◆ 交際が 長くてでかい そばの音(P・N 夏舟)

◆ 初恋の 想いは今も 忘れない(P・N 初恋うさぎ)

◆ 窓ガラス 熱気で曇る 夢を見る

◆ 片思い ホームで待ってる 寒い朝(P・N よわむし)

◆寒い冬 犬はコタツが LOVEになり
(P・N ゆずママ)

◆鍋料理 ふたりの笑顔 ふきこぼれ

(P・N カエツクン)

◆初詣 人の波にて 急接近 (P・N かえっちゃん)

◆メール待つ スマホにとける 細雪 (P・N ひくちゃん)

◆同衾で 降り積む雪を 見ていたい (P・N かずちゃん)

◆寒いねと 体当たりして 腕を組む (P・N 歌仙草)

◆混浴に 少し冷やすと 雪が降る (P・N シロ)

◆君の吐く 白息そっと吸い 風邪を引き

◆そっと触れ 手袋の壁 邪魔をして (P・N 川流れ乾太)

◆冬だけは さぶさに任せて 手を繋ぐ

(P・N シャイなんです)

◆水族館 キスという名に にじむ汗 (P・N 福ちゃん)

◆寒風を ミニで通した 若き恋 (P・N たんぽぽ)

◆登校路 白い吐息で 語り合い (P・N お地藏さん)

◆今日の日の いのちを割いて 寒ツバキ

(P・N 翔のんまな)

◆愛犬に 赤ちゃん言葉で 話しかけ

(P・N ぶるーぐらす)

◆彼の手を そっと握った 掘ごたつ (P・N 白ネコ)

◆雪の日は 少し薄着で 彼と会う

◆雪かきの 熱い姿に 恋のいき (P・N 白梅)

◆ジャンプ台 わたしの恋も ジャンプする

◆マフラーの 長さに恋が 跳ねている (P・N れんじい)

◆残雪に 恋の字残し 道の駅

◆白銀の 朝が眩しい ハネムーン (P・N とーさぶろー)

◆逢いたいと 書いて日記を そっと閉じ

◆野仏が 気づかない振り する別れ (P・N 颯爽)

◆知ってるの？ 君の瞳が 好きなこと

(P・N HIKARUくん)

◆お父さん！ も少し話 したかった…。

(P・N HIKARUくんのマミー)

◆雪恋し ふたり並んで そぞろ酒 (P・N ニョッキ)

◆ゲレンデに 君と描いた ハートマーク (P・N 未吹 明)

◆メールでは 書いても言えぬ あい・して・る

(P・N オリオン)

◆湯けむりに 雪より白き 君の肌 (P・N 野生馬)

◆冷やかされ 顔も真っ赤に 熱く萌え

(P・N ほにゃらか)

◆同窓会 行かなきゃ今も 恋してた (P・N まろ)

◆手袋を しなきゃよかった 帰り道 (P・N 初恋)

◆塩辛い 初恋の味 えんむすび (P・N Dのヤス)

◆ゲットした アドレス見つけ 恋妄想 (P・N ぱぐ美)

◆遠距離の 会えない時間 愛が増す (P・N ぴかりん)

◆相棒の好きな 梨ジャムパン渡す (P・N もも)

◆ 頬染まる 寒いせいだと 照れ隠し
(P・N 竹子デラックス)

◆ 陽だまりで 無くした恋が 目を覚まし

◆ キミとなら 暖房オフを 企てる (P・N 薬寺村池丸)

◆ セーターを 編んだら君に 会いに行く

◆ 木枯らしを やっつけようと 腕を組む (P・N 海月)

◆ 標的は 恋のライバル 雪合戦

◆ 口下手で 恋の入試は 難しい (P・N すみれ)

◆ 砂嵐 それでも閉じない 熱視線 (P・N 遠夢乞D)

◆ 恋をすりゃ 冬も暖か なんて親

◆ どうしても 好きで炬燵に 誘いこむ (P・N クジラ)

◆ 雪ひらり きっかけられて 手を繋ぐ (P・N 雪だるま)

◆ 川原で 出会ってなければ まだ他人 (P・N ハリー)

◆ お互いに 分かっているながら 乗り過ごす

(P・N ぴかちゅう)

◆ 何も無い ことすら楽しい 恋愛中

◆ 着信に 一喜一憂 その名前 (P・N 柳家法輪)

◆ あと少し 一緒にいてと 言えなくて

◆ 君想い 雪だるま二つ 寄り添わせ (P・N おきあ)

◆ 冬空を 見上げてあの娘(こ) 今何処

(P・N 小林 番茶)

◆ 赤い糸 信じ雪道 会いにゆく

◆ 雪の夜 メールにゆれる 恋ごころ (P・N みすず)

◆ 冷たい手 あと2センチで 届くのに (P・N ポンタ)

◆ 君に触れ 解けゆく私の中の雪

◆ 雪が降るように重なり 積もる好き

(P・N あいらむ)

◆ 温泉行こ 言ったらあなた 何をした?

◆ 気がつけば 妻が掛けたか かけぶとん。(P・N ロン助)

◆ メルアドを ゲットしただけで 満足し

(P・N こりんご)

◆ こちゃこい こたつとりもつ 恋のはな

(P・N さとうくにお)

◆ 寒いねと わざと腰へと 手を伸ばす (P・N 写楽)

◆ キュッキュツと 雪を踏みしめ つないだ手

◆ 雪だるま 君に逢うまで 増えていく (P・N まりりん)

◆ 白い息 二つが一つ 二秒間

◆ マフラーに 編んだ私の 赤い糸 (P・N 綾野)

◆ プロポーズ 雪の砂丘で 震えてた (P・N こま子)

◆ ぼたん雪 肩を寄せ合う 新婚さん

◆ 雪道に 重なる二の字の 下駄のあと

(P・N メタボおやじ)

◆ あなた待つ 寒ささえも 気にとめず (P・N ジョイン)

◆ その昔妻は うさぎの 様だった

◆ 美しく 老いていく妻 また愛す (P・N おでんケーキ)

◆ チョコ渡し 走って消えた 雪の夜

◆ 手鏡が 恋の冬眠 叱ってる (P・N 真昼)

◆ 青空に 白い吐息で 書く二文字

◆ 初デート 付かず離れず 冬の道 (P・N 輪舞曲)

◆恋ごころ 今年の冬を あつくする (P・Nふみ)

◆打ち寄せる 想いに理性を さらわれて (P・N砂城)

◆コタツにて ほづれをほどく 赤い糸
(P・Nザ・落花生)

◆あなたへの 想いも雪も 降り積もり

(P・N日本の救世主「ぬこ」)

◆冷たき手 愛する人の 熱さかな (P・Nありか)

◆お揃いの ウェアが嬉しい 銀世界 (P・N鼓吟)



【特別賞】

◆初詣 願う君との 明日のこと (P・N糖衣錠)

《一言》「未来」ではなく、「明日」。ここが良かった！

◆我が妻に 声をかければ ニホンザル (温泉で見間違えた様子)

(P・Nみーちゃん)

《一言》下手な漫才より、よっぽど面白すぎます♪

◆なにかある このごろサービス 過剰やな

(P・N大和の雨蛙)

《一言》関西弁だからこそ、余計に味のある作品です。

◆ベタなこと ばかりしたがる 冬のきみ

(P・Nロマンチストは好きよ)

《一言》「それは冬とキミのせいさ☆」思わず笑みが♪

◆あなたより 蟹に逢いたい 里帰り (P・N姫ちゃん)

《一言》カニ王国鳥取の観光大使に決定☆です！

◆めずらしく 訳は残業 気にかかり (P・Nみーちゃん)

《一言》全国で今ドキッとした男子たち、何人いる？

◆諭吉さん 恋してるのに 来てくれず (P・Nしめじ飯)

《一言》スタッフ一同、最初に即決した作品です (涙)。

◆件名の RE: の数だけ 愛深まる (P・Nぱぐ美)

《一言》時々、RE: で真っ黒になってますけどね (照)。

◆星座の名 キスをしたくて 覚えた日

(P・N花キャベツ)

◆《一言》学生時代に夢見ていたことを思い出しました…。
かまくらで リアルままごと 一戸建て (P・N寒月)
《一言》これ、最近の小学生とかしてそうですー！

※以上十名様には、秀句として開運招福 恋愛砂ポートストラップをお贈りします。また、今回も優秀な作品が多く、惜しくも特別賞に届かなかった次の五名の方の作品も、プチ特別賞としまして、神話の里 白兔海岸マグネットをお届けします。

◆初詣 恋のおみくじ 大吉だー！ (P・Nさっちゃん)

◆初めての 正月照れ聞く 餅いくつ？

(P・Nベーちゃん)

◆妻の愛 空気のようにも つかめます (P・N凡充留)

◆大きな手： 今では痛たの ハイタッチ！

(P・N HIKARUくんのママ)

◆告白の 炬燵で猫が 耳を立て (P・Nあかね雲)

なお、紙面のスペース上、多数にわたるご応募の方につきましては、掲載を二句までとさせていただきます。悪しからずご了承ください。また、作品にペンネーム(P・N)の付していないものについては、宛先のみご紹介させていただきます。また、抽選の結果発表については、発送をもって代えさせていただきます。次回の【春】「ご縁を感じる川柳」編は三月に募集しますので、お見逃しなく☆

by. KISAKI HIMEKO
(郷土神話観光
コーディネーター
☆)

最近、夜の帳が下りるのが遅くなってきたり農産物直売所に梅や桃、桜の花が再々見掛けられるようになってきて、春の訪れを日増しに強く感じているところです。新年度も様々な企画を計画していますが、今年も川柳ではどんな出会いがあるのだろうか？などと、自分の企画やイベントを通して人から人へとつながっていく「ご縁」のことを思うと、この季節が一番楽しみであり愛おしくさえ感じられます。春よ、みんなの元へ早く来い♪